

# 平成 30 年度認定こども園リーチェル幼稚園における学校関係者評価および自己評価の結果報告

自己評価アンケート集計日 平成 31 年 2 月 28 日  
 学校関係者評価委員会評価実施日 平成 31 年 3 月 8 日

## 1. 園の教育目標

心身ともにたくましい子になろう

## 2. 認定こども園リーチェル幼稚園の具体的な保育指針

- 自分で出来ることは自分でやる気概を育てる
- 知性・思考力と好奇心、創造性の伸長
- 身近な動植物を愛し、自然や社会の事象に興味・関心をもつ
- 体力の向上をはかる
- 10の約束（幼児期に身につけたいモラル）を実践する

## 3. 学校評価項目の取り組み状況・達成結果の評価

	評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
		評価	反省と改善点	評価	意見
1	保育の計画性	B	こども園となり、長時間保育の園児が増加し、その保育に人員が必要となり、今までできていた教材研究・保育研究等の時間を確保するため勤務状況や体制を改善してきたが、まだまだ足りない状況だった。時間のない中でも、おおむね計画通り保育することができた。 しかしながら、時間確保がますます難しくなる状況の為、次年度に向け保育全体を通して抜本的な改革が必要である。	A	園の全体の計画から各学年の保育計画、月間保育計画など、しっかりとした計画性をもって、この一年間をおおむね計画通り実践することができた。 乳幼児教育の充実が求められている今、さらに創意工夫を施し、よりよい教育保育の提供を求める。
2	保育の在り方 園児への対応	A	保育士不足で人材確保が難しい中、パート職員を増員し、各学年のサポート体制を整備した。しかしながら、まだまだ職員数を増やしきめ細かいサポートができるようにしていきたい。保育内容については乳児、幼児を隔てることなくそれぞれを連携させ、今以上に関わりをもてる保育にしていきたい。 長時間保育児がこれから年々増えていくことを考慮し、教諭の保育体制を工夫改善し、園児への充実した教育保育の提供を構築していく必要がなお一層必要である。	A	こども園 2 年目となり、年間の流れを踏まえて保育実践をおこなうことができている。また保育補助の体制も拡充し、園児への細やかな対応や保育の充実に努めている。 こども園という形態を活かし、長時間保育の園児たちへの更なる保育の充実や、異年齢との、特に乳児との関わりを充実させ、こども園の環境を生かした保育をさらに実践していけるとよい。
3	教師としての 資質・能力 良識・適性	A	園長による園内研修（メンタリングマネジメント）を全職員に対し行い、職員の人としての在り方について研修した。また各教諭に対する保育技術向上のために必要な研修に積極的に参加し、キャリアアップに向けた研修をより充実させた。また療育支援等、専門知識を高め、個々の保育技術の向上・資質向上に努めた。	A	夏期におこなわれる県の研修や年間を通しておこなわれる外部の研修に積極的に参加し教師の資質向上に努めている。 園内研修や職員全体会議等を利用し職員全体の資質向上に努め、より良い組織を築いていく姿勢がととてもよい。
4	保護者への 対応	B	保育参加や保護者参観会、行事等をとおり保護者に園のことを理解してもらう機会をつくり、また父母の会活動をとおり園との距離を縮めてもらうよう努めた。しかしながら相互理解をより深めるためにも、保護者とのコミュニケーションの機会を増やすための工夫が求められる。	B	保護者が園に協力してもらうためには園とのコミュニケーションの機会を多くもつことが大切である。園として手紙などの媒体を利用して保護者と園の相互理解が必要。 また近年共働き世帯が増えており保護者会の運営についても協議が必要。

5	地域の自然や社会との関わり	A	地域のイベントへの参加や老人ホームへ訪問を通し地域社会との関わりをもち、また近くの森や公園、市街地などへの園外保育や夏期保育、サマーキャンプを通して自分たちの住む富士宮の恵まれた環境や自然を感じ、社会性や郷土愛育む機会となった	A	保育に地域の場を活用しており、また郷土愛を育む工夫がなされ、子供たちの社会性を養う活動がおこなわれており、とてもよい。
6	研修と研究	B	食育と運動の強化を推進する研究をすすめてきた。また給食を通した食育を実践し、子供たちの食への興味関心を高めることができた。	A	教育内容がより充実したものとなるよう教育研究に努めていって欲しい

\*結果の表示方法

十分達成されている	A
達成されている	B
取り組まれているが、成果が十分でない	C
取り組みが不十分である	D

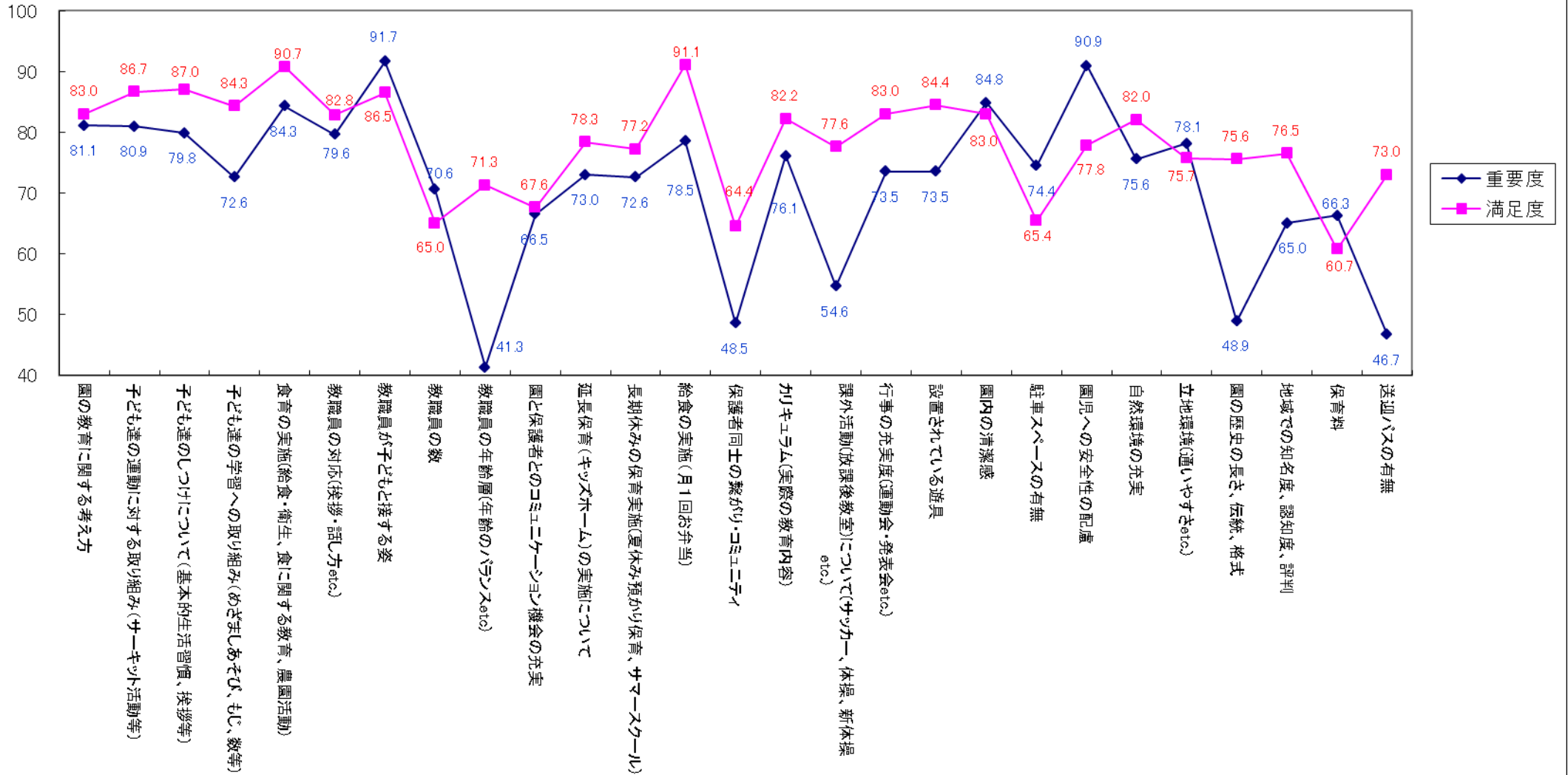
#### 4. アンケートによる自己評価（教職員）および保護者による学校評価の結果

	項目	質問内容	自己評価	学校評価			
1	理念・教育方針	園の教育に関する考え方	77.2	71.9	86.3	83.0	
		子ども達の運動に力を入れている	75.7				86.7
		子ども達のしつけをしっかりとおこなっている	72.1				87.0
		子ども達の学習に力を入れている	62.5				84.3
		食育の実施(給食の味・栄養バランス・衛生、食に関する教育の有無)	72.1				90.7
2	教職員の取り組み	教職員の対応(挨拶・話し方 etc.)	66.2	62.5	74.6	82.8	
		教職員が子どもと接する姿	69.9				86.5
		教職員の数	54.4				65.0
		教職員の年齢層(年齢のバランス etc)	63.2				71.3
		園と保護者とのコミュニケーション機会の充実	58.8				67.6
3	教育・保育に関するサービス	延長保育の実施	69.9	70.8	79.1	78.3	
		長期休みの保育実施(夏休み etc.)	71.3				77.2
		給食の有無	81.6				91.1
		保護者同士の繋がり・コミュニティ	58.8				64.4
		カリキュラム(実際の教育内容)	68.4				82.2
		課外活動(放課後の教室)について(サッカー、体操、新体操等)	69.1				77.6
		行事の充実度(運動会・発表会 etc.)	76.5				83.0
4	施設・設備・環境	設置されている遊具	76.5	73.7	78.1	84.4	
		園内の清潔感	72.1				83.0
		駐車スペースの有無	73.5				65.4
		園児への安全性の配慮	67.7				77.8
		自然環境の充実	80.3				82.0
		立地環境(通いやすさ etc.)	72.1				75.7
5	その他	園の歴史の長さ、伝統、格式	69.7	65.6	71.4	76.5	
		地域での知名度、認知度、評判	60.3				60.7
		保育料	58.8				63.0
		送迎バスの有無	73.5				73.0

## 5. 保護者アンケートによる重要度と満足度の調査結果

※重要度とは幼稚園選びの際にどの項目を重視しているのかを示し、満足度とはリーチェル幼稚園の取り組みに対する各項目の印象(満足度)を示しています

# 保護者の満足度調査



6. 学校関係者評価委員会による総評

<p>園の理念・教育方針に対する保護者の理解も高く、カリキュラム、運動・食育に関する園の取り組みに高い評価をいただいている。こども園としてより満足いただけるようさらに教育保育の内容を充実させ、子供たちがより主体性を持ち、また子供たちの可能性をもっと引き出す活動を増やしていくとよりよい乳幼児教育が実践されていくと思う。</p>	<p>総評</p>
<p>保護者の満足度調査により職員数について保護者の満足度が低い項目としてあげられ、さらなる教員確保をお願いするとともに、教職員一人ひとりの資質向上にも力を入れていって欲しい。それと同時に教職員の働きがいについても、職場環境の改善を進め、長く勤められる環境づくりの構築をお願いしたい。</p> <p>また園と保護者とのよりよい関係づくりへの工夫も求められる。子供を中心とした共育をとおして、子供も保護者も園も先生もそして地域も育つ仕組みづくりに挑戦していってほしい。</p> <p>園が子育て支援のより良い拠点になるべく、これからの期待も込めて学校関係者評価委員会としての評価は A とする。</p>	

7. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>教職員の資質向上、子供や保護者への対応の充実</p>	<p>教育保育の質の向上には、教職員一人ひとりの資質向上はもちろん必要であるが、教職員の増員にも力を入れて欲しい。数を増やすことにより、より手厚い保育が実現でき、教育保育の質の向上につながる。さらには子供や保護者への対応についても気めこまやかな対応が実現できる。</p> <p>教職員の研修については計画的に取り入れ、一人ひとりの資質向上に努める。</p>
<p>園児への安全性の強化</p>	<p>園における危険個所の把握と危機対応による研修を重ね、教職員全員の意識を向上させる。</p> <p>また不審者対応、自然災害、園内感染、アレルギー対応などのマニュアルを再確認し、非常事態に落ち着いて対応できるよう日頃から訓練を重ねる。</p> <p>子供達への安全教育をおこない、子供達の冒険心を尊重し、かつ安全にのびのびといろいろな事に挑戦できる環境を整える。</p> <p>防災用品の確保と点検をおこない万が一に備える。</p>
<p>駐車場、園への通園の問題</p>	<p>駐車場が増えることで登降園時の混雑を解消し、それと同時に保護者の交通マナーの徹底をおこなう。</p> <p>近隣の方々に迷惑がかからないよう登園・降園時のルール改訂とマナーを徹底する。</p>
<p>施設・園庭等園内環境の整備・美化</p>	<p>園内の清潔を常に重要課題として認識する。</p> <p>安全対策への教職員の意識をさらに高め、園庭における職員配置の改善や園庭の環境整備を進める。</p>